

対馬構想区域の状況（平成30年度）

具体的対応方針

1 役割（・・特に地域において担うべき役割、・・・地域において担うべき役割）

		がん	脳卒中	心疾患疾病		糖尿病	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	議論の状況
				急性期	回復期								
長崎県 対馬病院	2018												協議済
	2025												
長崎県 上対馬病院	2018												協議済
	2025												

2 病床数（2017年・・平成29年度病床機能報告(平成29年7月1日時点)、2025年・・公的医療機関等2025プラン）

		合計	高度	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	介護等	議論の状況
		長崎県 対馬病院	2017	222	8	164	50		
	2025	222	8	164	50				
長崎県 上対馬病院	2017	60				60			協議済
	2025	60				60			

【共通項目】

今後も2025年に向け、「公的医療機関等2025プラン」内の具体的な対応方針については、構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、毎年、対馬区域地域医療構想調整会議において協議を行い、必要に応じて見直しを行う。

また、第2次中期経営計画（～2020年度）の見直し時にあらためて、その都度医療需要等を踏まえた検討を行う。

なお、地域医療構想を進めていくに当たっては、医療機関の主体的な取り組みや地域住民の協力が不可欠であることから、個別医療機関ごとの医療機能や診療実績、各種補助金や繰入金等について公表していく。

病院名	自施設の現状	自施設の課題	今後の方針		具体的な計画 (4機能の病床のあり方) 【一般病床+療養病床】			
			地域において今後担うべき役割		H28報告		2025	
長崎県対馬病院	<ul style="list-style-type: none"> ・対馬島内の中核病院として、5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、5事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療（その他）、在宅医療など）を提供。 ・診療実績 (一般)届出入院基本料：10対1看護、平均在院日数:19.1日、病床稼働率86.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子・高齢化等の地域環境の変化を踏まえた医療の提供 ・医師等医療従事者の確保 ・経営の健全化 	<p>・対馬の最終病院として、対馬市の地域医療の中核としてさらに医療の充実を図る。</p> <p>・対馬の地域包括ケアの中心となり、対馬医療を支える。</p> <p>・対馬医療圏の中核病院として、急性期、小児・周産期、精神、救急、災害、へき地医療など、質の高い島内完結医療を提供</p> <p>・地域リハビリテーション広域支援センターとして、院内でのリハビリテーションの提供のほか、地域関係者の研修会等を実施。</p> <p>・後方支援病院、診療所、関係施設との連携の構築。</p> <p>・地域医療連携室を中心とした在宅医療の強化</p> <p>・地域医療を担う人材育成のため、医師等医療従事者の研修受入体制を整備。</p> <p>・構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、毎年、対馬区域地域医療構想調整会議において協議を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>なお、地域医療構想を進めていくに当たっては、医療機関の主体的な取り組みや地域住民の協力が不可欠であることから、個別医療機関ごとの医療機能や診療実績、各種補助金や繰入金等について公表していく。</p>	高度	8	現状維持	高度	8
				急性	164		急性	164
				回復	50		回復	50
				慢性	-		慢性	-
長崎県上対馬病院	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は対馬の最北端の上対馬町にあり、診療圏内（上対馬町・上県町）の人口は、6,975人（平成29年11月末現在）で医師常勤の診療所が2ヶ所、医師兼任診療所が4ヶ所あるのみで、他の1病院は当院から自家用車で1時間30分以上の距離がある。 ・対馬市内の2病院の経営が統合され医療資源の有効活用と経営の健全化を図るため、一層の連携強化と診療機能の分担を推進する必要がある。 ・患者数の減少に伴い、病床利用率が低下していたが、患者のニーズが増え、平成28年度以降は、利用率が70%に近い数字を推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化や過疎化に伴う島外への人口流出により、人口は減少している。 ・交通アクセスの改善等による患者の島内の他院受診により患者数は減少している。 ・少子高齢化、生産年齢人口の減少により介護する者、介護施設は不足している。 ・医師をはじめ、医療技術者や看護師等の確保が極めて困難であることを考慮した場合、現状のままでは、医療水準の維持が困難になることが懸念される。 ・医師数が年々減少し、下対馬地区の病院との医療格差が増大している。 ・地域住民の医療ニーズの高まりに応え、信頼される医療体制を構築する必要がある。 ・透析室を14床設置している。 	<p>・最終的に「経営黒字」が達成できるよう中期経営計画を策定していくため、この計画策定における基本目標を、「地域住民の信頼に応え、地域の中核的病院の役割を担うため、長崎県対馬病院との連携を促進し、高度で良質な医療の提供を行う病院を目指す。」とし、当院の取組みとして</p> <p>医療の質の向上 経営状況の健全化 医療従事者の確保の3つの基本計画を実施するとともに、より安定した医療を実施していく。</p> <p>・今後も、高齢化に伴い、患者数は横ばいと推測されるため、病床数は、現状維持。</p> <p>・構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、毎年、対馬区域地域医療構想調整会議において協議を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>なお、地域医療構想を進めていくに当たっては、医療機関の主体的な取り組みや地域住民の協力が不可欠であることから、個別医療機関ごとの医療機能や診療実績、各種補助金や繰入金等について公表していく。</p>	高度	-	病床機能変更	高度	-
				急性	60		急性	-
				回復	-		回復	-
				慢性	-		慢性	60